



RI 会長テーマ

会 報

クラブ会長テーマ

ロータリーの第2世紀の第1章を書こう！



2005-11-10 第 7 2 1 回例会 NO. 16-17 2005-11-16 発行

多摩東グループインターシティミーティング

日 時：2005年 11月 10日(木) 13時開会

場 所：府中の森芸術劇場

【会 議】

総合司会 グループ幹事 三浦 康正

司会点鐘

ガバナー補佐 福井 衛



①国歌斉唱・ロータリーソング『奉仕の理想』斉唱

ソングリーダー 菅野 修逸

◎開会挨拶

ガバナー補佐 福井 衛

◎歓迎挨拶

ホストクラブ会長 渥美 文雄

◎来賓・参加クラブ紹介 ガバナー補佐 福井 衛

◎ガバナー挨拶

市川伊三夫ガバナー



◎基調講演

秋山 一パストガバナー

* インターシティミーティングの由来

元は、イントラシティジェネラルフォーラムとインターシティジェネラルフォーラムの二つがあった。イントラシティの方は地域内部を深く見つめ、インターシティの方は地域を越えて勉強するもの。こちらが残ってインターシティミーティングとなった。

* 本日のメインテーマは職業奉仕、IMとして時期を得たテーマであり、このような基本問題を真摯に語り合うことは誠に意義深い。

* 職業奉仕とは職業倫理の問題であり、日本のロータリーでは特に重要視してきた。職業倫理とは、所謂コンプライアンスのレベルを超えたものである。Vocation天職とは、社会に貢献するために神の命により授かったもの。それによる利益追求の目的は、一つは天職の継続・再生産であり、今ひとつは天職の向上、それ以外のものではない。

* この職業倫理の向上は何によって為されるか。それを第一モットーとする唯一の組織、ロータリークラブに於いてである。クラブの教育的役割の重要な所以である。各クラブは義務を果たしているか？

クラブR情報委員会はその役割を果たしているか？

* 今ひとつロータリーにとって重要なことは、クラブの自立性である。各クラブの尊厳は犯すべからざるもの、CLPもその前提の上で為されねばならない。

【パネルディスカッション】

＜テーマ①＞「これからのロータリーで最も重要と思われる奉仕は何か？」

コーディネーター： 福井 衛 ガバナー補佐

パネラー：十蔵寺新・浜崎幸夫・伊藤富夫・赤尾恭雄

＜コーディネーター＞

ロータリーの、100年の歴史は輝かしいものであるが、設立当初とは社会が大きく変動している。今、

事務局 〒206-0033 多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号 Tel 042-372-6463 Fax 042-372-6491 E-mail tamagrc@cello.ocn.ne.jp

会長：北村幸彦 幹事：篠崎一雄 会報委員長：宮本誠 副委員長：高木淳光 例会場 京王プラザホテル多摩

委員：大松誠二・萩生田政由・伊澤ケイ子・澄川昇・由井真司

例会日 毎週水曜日12:30 月最終例会18:30

ロータリーに最も求められるものは何か。この社会状況の中で、行き着くところは職業奉仕であろう。

＜パネラー＞＜会場＞

* 職業倫理＝合法だけでは不足。合法ではあっても超えてはならぬ一線がある。

* 利益追求は姑息な手段による競争でなく、あくまで付加価値競争によってなされねばならない。

* 業務＝奉仕と感ずるのは難しい。よい仕事を納めた時の利益に関係のない満足感、これが奉仕か。

* しかし第3者機関の評価を要する時代となり、自己判断では不足も生じ得ることに注意が必要。

* I serve がクラブとして集り、大きな力となる。

* 地区委員会と各クラブは疎遠勝ち。本年度地区委員会はグループ毎に出向いて各クラブ職業奉仕委員とブレインストーミングを行い、大収穫があった。

* 会員個人の職業倫理の向上の為に、クラブは何が支援できるか、何をすべきかが重要。

* 時代の変革により、職業倫理上無意識のうちに流されてしまう危険性がある。意識的ボケーショナルメンテナンスが必要である。

* 第3者機関の評価を要する事態こそが、職業倫理の欠如を示しているのではないか。

* 道徳律の基本は愛である。他人を減らすよりも己が減ぶことを選べ。(佐藤千里)

* 人生に学ぶ唯一のことは、人生において如何にエゴと決別するかである。社会に役立つ人間になる方法は間違いなく己の職業の中にある。(ポールハリス)

＜コーディネーター＞

結論が出るものではないが、各クラブ内でこの問題を真剣に議論することだけは、是非お願いしたい。

＜テーマ②＞「これからの社会奉仕活動のあり方は？」

コーディネーター： 福井 衛ガバナー補佐

パネラー： 天沼敏之・谷田部和夫・吉川正一
東海林和彦・田中茂和

＜コーディネーター＞

決議 92-286 により、決議 23-34 を残しつつも、R1 は I serve から We serve に舵を切った。また、単年度主義か継続か。パネラーの考えは？

＜パネラー＞

* 歴史的には、エゴ（相互扶助）のみでは長続きしない

との認識により、社会奉仕を取り入れた。

* 利益追求とは自己のためのみの行動 → 良心の痛み → 社会奉仕によって和らげる意味もある。

* 無人島で事業は成立しない。つまり社会に支えられている → 感謝。ハリケーン被害に対する支援活動も、関東大震災時の記憶＝「感謝」が基本にあるはず。

* 社会的に認知されるためにも、奉仕の実効のためにも継続が重要である。・・・種々引例・・・

* 次代を担う新世代に関与すべきである。

* 先ずクラブ奉仕が重要。

＜コーディネーター＞

C L P との関連において述べておきたい。

* C L P では奉仕活動には全員参加が重要としている。

* 単年度か継続かについて、C L P は継続を重要視する

* C L P は陰徳を良しとせず、地域広報の重要性を強調。

* R1 の世界的活動と地域密着型活動のバランスが大切。

* 社会奉仕と職業奉仕のバランスが大切。

◎市川伊三夫ガバナー 所感

素晴らしい I M であった。

今後世の中は、物事を隠すことの出来ない社会、つまり「公正」が力を持つ社会となる。ロータリーの「四つのテスト」を実践し広めることが極めて重要となって来る。

◎閉会点鐘

ガバナー補佐 福井 衛

[懇親会]

司会進行 グループ幹事 三浦 康正

◎開会挨拶

I M 実行委員長 土田 昭一

◎乾 杯

ガバナーエレクト 谷島 昶

一飲 談一

◎閉会挨拶

I M 実行副委員長 福島 和義

♪ロータリーソング「手に手つないで」♪

◎出席報告

会員総数 42 名

出席義務者数 41 名(出席免除者3名)

出席者数 28 名

欠席者数 13 名(事前 M U 3 名)

出席率 75.61%

補填 M U : 大松 誠二、藤本 吉文、関岡 俊二

各会員とも 11/2 理事会

10/26 最終訂正出席率 78.05%

(今週の担当 高木 淳光)